

沖縄県立看護大学広報誌

2010(平成22年)5.30

No.

16

かせかけ

Okinawa Prefectural College of Nursing



CONTENTS

- 平成22年度入学式 2
- ようこそ看護大学へ 3
- 新入生の声 3
- GP取り組みの紹介 4
- 座談会 患者を受け持った初めての実習 5
- 地域貢献 公開講座 6
- 平成21年度卒業式・修了式 7
- 在学生の声 7
- 教職員の動き 8

沖縄県立 看護大学・大学院

平成22年度入学式

2010年(平成22年)4月2日、看護学部第12回、別科助産専攻第3回、大学院第7回入学式が行われ、学部生80名、別科生20名、大学院生12名、合計112名が新たな生活の一歩を踏み出しました。

野口学長から112名の入学生に入学を許可することばが述べされました。

これを受けて、看護学部看護学科の百名絵梨佳さん、別科助産専攻の玉那覇あすかさん、大学院保健看護学研究科の翁長悦子さんが、それぞれ宣誓を行いました。

また、当日は就任まもない上原良幸副知事が知事あいさつを代読し、入学生の門出を祝いました。



平成22年度 入学式 学長告辞

沖縄県立看護大学 学長

野口 美和子

本日 沖縄県知事の御臨席のもとに、関係者多数のご臨席を賜わり、平成22年度沖縄県立看護大学並びに大学院の入学式を挙行するにあたり、新入生の皆様に心からお慶び申し上げます。おめでとうございます。皆様のこれまでの努力と、ご家族の方々並びに関係者の方々のご支援に、教職員一同感謝申し上げております。新入生として本日お迎えした方は、学部学生80名、別科助産専攻の20名、大学院博士前期課程9名、博士後期課程3名です。大学院博士前期課程と博士後期課程の入学者の中には文部科学省「組織的な大学院教育推進プログラム」による入学者が含まれています。

沖縄県立看護大学は、県民に質の高い保健・医療・福祉のサービスを提供できる看護職者を育成することを目標として平成11年4月に開設されました。平成16年4月には大学院保健看護学研究科を開設し、学部から博士後期課程まで看護のすべての高等教育課程を備えました。別科助産専攻は、近年の産科領域の医療職の不足が著しい状況をかんがみて、緊急に対応すべく一昨年度に開設したもので、第3回生を本日迎えております。

本学の教育理念は看護学の進歩をふまえて、更に複雑化した健康問題と医療福祉体制中での看護への期待に応えつつ、又専門職を育成することにあります。そして沖縄の県民性、地域性に根ざし、地域文化の理解の上に立った地域ニーズを反映した、教育を行うことが求められています。地域において計画・実践力・他職種と連携してゆく力が求められています。又、文化の多様性を理解し、世界の看護に目を向けて広い視野を培うことも、その目標に掲げています。

看護学部での教育では、教養教育並びに看護学の専門教育を通して、幅広い人間理解に基づく暖かい心と生涯にわたって看護学を追究するための基礎的学問的能力を育成します。厳しい受験生活を終えて入学された皆様は、ゆっくりと楽しい大学生活を送ろうと考えておられるかもしれません。しかし、県立看護大学は違います。1年次から4年次までびっしりと難しい科目がつまっています。又、看護実習では、指導して下さる方々、住民や患者さんと率直で真摯な人間関係を結び、生涯にわたって実践で学ぶ態度を養うことも求められます。また、僻地離島での実習も計画されています。皆さんはそれらのことも予めご承知の上でその主旨に賛同して沖縄県立看護大学を選び、努力して入学

されたと信じています。初心を貫いて下さるようにお願いいたします。ハードな学生生活の中でも、クラブ活動などで心身を鍛え、友情を確かめ合い、社会活動を体験することは、将来看護職として皆さんが活動される上で、とても大切であることもお伝えしておきます。これまで本学の卒業生695名は沖縄県の各地、離島を含む保健・医療・福祉の場で役割を果たし、研鑽を積んでいるところです。皆様もそれに続けるよう、まずはこの4年間を地道にかつ前を向いて学んで下さい。だんだんに看護の素晴らしさと難しさが分かってくるはずです。

別科助産専攻に第3回生として入学された方々は、すでに看護師の免許を有しておられ、その多くは看護職としての活動をされてこられた方々です。高い志をもって、厳しい入学試験を突破されて本日入学されました。皆様は、1年間、助産学を学ばれ、また厳しい助産実習で技術を確実なものとして身につけ、もう来春には県内各地そして僻地離島で助産師として活躍されることが期待されているのです。1年という短い修学にもかかわらず、看護大学での学修ですから、自立した助産活動ができるのを目指し、離島実習など沖縄県特有の科目も設けられている他、将来母子保健の発展に貢献していただけるよう研究入門などの科目も設けています。沖縄県の母と子の健康、つまり県民の幸せが、皆さんの勉学にかかっています。時を惜しんで励んで下さいようお願いいたします。

大学院博士前期課程いわゆる修士の課程では、看護をさらに広く学び、看護の教育機関や実践の場でリーダーシップを発揮できる能力を養います。なかには専門看護師を目指す科目を選択されている人もいます。博士後期課程すなわち博士の課程では看護学上の課題を独立して探求し、研究能力を身につけて、人々の健康上の課題解決に貢献していく教育研究者を育成します。大学院に入学された皆さんの多くは、看護職としてまた看護教員としての仕事を持ちながらの社会人学生であります。よりよい看護活動のあり方を求めて、看護学の発展のために精進して下さい。

ご承知のとおり本学は、県立の大学であります。県行政、全県下の保健・医療・福祉の専門職、実習施設の関係者、なにより県民の皆様の御指導、御支援を受けて教育が進められていることが特徴であります。その方々の期待に応え、教えをよく理解し、県民の健康と幸せに関わる看護の将来が皆さんの学修にかかっていることを自覚して下さい。最後に、入学者の皆様には健康に留意し学業を全うされることをお願いし、またご家族、関係者の方々には、より一層のご支援を賜りますようお願いしまして告辭と致します。

平成22年4月2日

ようこそ看護大学へ



学生会長

講舛 亮太郎

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんはこれから的大学生生活に胸膨らませていると思います。ここで、本大学の紹介を少ししたいと思います。

本大学では「看護とは何か」という根本的なことから、看護を実践するためには必要な能力や知識・技術などを、講義や演習、実習を通して学ぶことができます。県内唯一の看護大学附属図書館もあり、最適な学習環境が整っています。

次に毎年恒例のイベント・活動として、毎年6月に行われる「看大祭」は本学の最も魅力的なイベントの一つです。飲食系の出店や、応急救護・健康管理などの看護系の出展、緑に囲まれた中庭でのエイサーなどは看護大学ならではの雰囲気が味わえます。

夏真っ盛りの9月には「渡嘉敷島研修」があります。学生と先生方と自然との交流をテーマに、昨年は130名近くの学生・教職員が参加しました。本学では、学生会を始め、学生主体の活動・イベントが多数あります。さらに、スポーツ系、文化系、ボランティアなどのサークルなどがあります。

新しい仲間と過ごす時間を大切にし、勉強はもちろん、大学のイベントや活動に積極的に参加し、充実した大学生活を過ごしてほしいです。

新入生の声



看護学部看護学科
百名 絵梨佳

私は高校二年生の時に一日看護体験に参加したことがきっかけで、看護師に興味を持つようになりました。看護師の仕事はきつ大変なイメージがとても強かったのですが、看護師さんが患者さん一人一人に笑顔で声をかけ、治療に前向きに専念できるように明るく患者さんへ接する様子を見て、今まで思っていたイメージとは違い、とてもやりがいのある仕事だと強く感じました。大学では自ら積極的に学び行動しなければいけないので、初めてのことが多く戸惑うことばかりですが、先輩や友達との交流を通して幅広い視野を広げていきたいと思います。また勉強面だけでなく、いろいろなことに積極的に挑戦して人間性を高めていきたいです。



別科助産専攻
玉那覇 あすか

私は、看護学生時代、母性・小児看護が大の苦手でした。そんな私が今、助産の道に進んでいることに自分自身驚きます。私が助産師になろうと別科助産専攻を志したのは小児看護に携わる経験がきっかけでした。病を抱えながらも懸命に生きている姿、あどけなくかわいらしい表情や笑顔をみてみると、こどもたちの生きる力を支えたいと思うようになりました。助産の道に進むことを決意しました。現在、年齢も年代も違う20人と共に日々、課題に追われ奮闘中です。助産師となる道は厳しいと思いますが、同じ目標に向かって皆で仲良く、楽しく、力を合わせて頑張っていきたいと思います。



大学院 保健看護学研究科
博士前期課程 保健看護管理領域
翁長 悅子

かねてから自身の中で温めていた、計画を実行に移した。それは、大学院で看護学を深めることであった。臨床の現場で32年がむしゃらに進んできた。その間に看護管理に関わるようになり、スタッフの現任教育、指導など自分に足りないこと、知識を深めたいと日々思っていた。昨年夏、看護大学大学院の入学案内を取り寄せ、保健看護管理専攻を決意し受験に臨み、筆記、面接を経て合格の通知を受け取ったとき、感無量であった。面接官の「あなたの考える看護を聞かせてください」と言われたときの初心を振り返った新鮮な感動は今でも忘れません。患者や家族の立場を最優先に看護実践ができ、看護、医療の質向上にも貢献できるよう学び、学生生活もエンジョイし頑張る決意である。今後2年間、職場や家族には負担をかけるので、常に感謝の気持ちで学びたい。

GP取り組みの紹介

学部GP

「連携協働による地域づくり」シンポジウム開催

学部GP教員チーム 大湾 明美

本学は、平成20年から3年間、文部科学省から特別の資金をいただき、学部学生の教育方法の改善に取り組んでいます。教育方法の改善のキーワードは“生活者の視点”、“連携協働”、“ICT活用”的3つです。今回のシンポジウムは、「連携協働による地域づくり」をテーマとして取り上げ、連携協働することを目的として捉えず、地域づくりのための手段として位置づけ開催しました。

看護専門職の立場から千葉大学看護学部教授(宮崎美砂子)、宮古病院地域連携室室長(前川一美)、看護以外の専門職の立場から滋賀大学教育学部特任教員(小谷良子)、NPO法人黒潮実感センター所長(神田優)、コメントーターとしての鹿児島大学教授(長嶋俊介)を招き、保健医療福祉の専門職間の多職種連携だけでなく、地域住民やボランティアなどの非専門職をも含めた連携協働による地域づくりについて学びあい、語りあいました。

文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム」に採択(平成20年度～22年度)

大学院GP

島嶼看護の高度実践指導者の育成

取組実施担当者(代表) 神里 みどり

平成21年度4月から、大学院博士前期・後期課程における「島嶼看護の高度実践指導者の育成」プログラムが新しくスタートしました。このプログラムによる入学者は、博士前期課程2名、後期課程2名の総計4名になります。本プログラムでは、本大学と宮古病院内に新しく設置された宮古島教室とをテレビ会議システムで結び、宮古在住の院生が遠隔で講義を受講することができると、また宮古島以外の島在住の院生は、自宅のネット環境で受講できる仕組みになっているのが特徴になっています。遠隔講義だけでなく、週末を利用して、教員が宮古島教室で講義や演習を展開するなど、現地指導も取り入れた融合型教育を行っています。

このプログラムによって新しく設置された科目は9科目で、「島嶼看護」をキーワードに、国内外の教員と学生とで新たな学問領域に挑戦しながら授業を展開しています。博士前期課程の実習では、海外実習を取り入れ、沖縄に最も近い太平洋島嶼地域のグアム・サイパン・テニアンにて1週間の見学実習を行いました。後期課程の「国際島嶼看護論」においては、国内外から島嶼に関する専門家を招聘し集中講義を開催し、その一部は特別講義として一般の保健看護職にも公開をしました。特に国外からは、グアム、ハワイ、オーストラリア、ニュージーランド、台湾の5カ国から講師をお招きすることができ、学生にとってグローバルな視点で、島嶼県沖縄との相違点や類似点について学習する機会に恵まれたのではないかと思います。

平成22年度は博士前期課程2名、後期課程1名の学生を迎え、昨年度の経験を踏まえてさらなる発展を目指しており、「島嶼看護」の学問的構築に向けて努力していきたいと考えています。皆様方のご支援・ご協力をよろしくお願ひいたします。

ケアリングGP

新たな戦略的連携がスタート！

取組実施担当者(代表) 金城 芳秀

平成21年10月より、福岡県立大学をリーダー校とする『看護系大学から発信するケアリング・アイランド九州沖縄構想』が開始されました。九州・沖縄の13大学が7つの共通課題をふまえて、ケアリング**の連鎖を大学内から、医療機関へ、そして地域社会へと広げる構想です。共通課題とは、1)助手・助教力、専任教員力、教員集団力の停滞、2)臨地実習指導者の教育力のばらつき、3)卒後一年目看護師の高離職率、4)卒後一年目の看護技術の未熟さ、5)新設校などの学生間における学びの文化の未成熟、6)理科系科目的不得意さ、および7)各大学の特徴科目の共有不足です。県内からは琉球大学、名桜大学ならびに本校の3大学が“ケアリング・アイランド”を作り出す機会として、新たな戦略的連携に取り組んでいます。

*文部科学省「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」に採択(平成21年度～23年度)

**ケアリングとは、人と人とのかかわりの中にある「助け合いの心」「もてなし」「面倒見の良さ」などによって人々に豊かな情感と癒しの感覚が生じること、その過程。

コラム 「実習を通して沖縄を知る」地域保健看護実習

ウチナーンチュでないボクには、沖縄はいまだに謎の多いところです。新しい方言にも次々と出会えます。保健師として住民のウォーキングサークルに一緒に参加していたとき、目的地まであと半分というところで「やーさぬ！！」と大声を出した男性がいました。糖尿病予備群の彼にとって、歩くという運動は必要だけれど、食べる量も制限しなければならないという生活中で思わず出た本音なのでしょう。

ボクはその頃、「やーさん」という言葉は知っていたのですが、少し変形した「やーさぬ」がとっさにわかりませんでした。みなさんはわかりますか？

地域実習で健康教育や家庭訪問などを実践していると、あちらこちらでこういう出会いがあると思います。保健師の活動を学び、地域と触れ合う経験は、きっと学生の皆さんのが将来の財産になることでしょう。



地域保健看護 牧内 忍

座談会 患者を受け持った初めての実習 ～ナースの卵たちの奮闘～

平成21年9月～11月に臨地実習が行われ、当時2年生だった78名の学生が参加しました。学生にとって、ひとりの患者さんを受け持ち看護を行う実習はこの実習が初めてであり、時には患者さんとともに回復を喜び、時には自分の未熟さを実感して悔し涙を流すなど、様々な体験をしました。この実習を通して、学生達は看護の対象となる人々を理解する大切さや難しさ、看護技術や医学的知識などの事前学習の重要性を学び、看護職者へ向けて大きな一歩を踏み出しました。



3年次生 平敷浩子 3年次生 宮城秀成 3年次生 屋宜百合子 3年次生 平安名朗子

最初は恐かった…、こんな私が大丈夫なのって。でも、看護師さんのやさしい指導に助けられた

平安名 最初は緊張しました。ちゃんとできるのかなというのがありました。

平敷 緊張というより恐かったです。

屋宜 大丈夫かなって思いました。こんな私なのに…。

平安名 実習中はとにかく必死でしたよ。

宮城 でも看護師さんたちがやさしかったので、とても助けられました。

平安名 そうですね、最初は看護師さんとも緊張して話せなかつたんです。でも、思い切って質問してみると色々と教えてくれて。分からぬことはちゃんと聞かなかぎりだめなんだと分かりました。

宮城 日が経つごとに看護師さんに質問できるようになりました。

患者さんとコミュニケーションがとれるようになって、すぐうれしかった

平敷 私の患者さんは、最初は話しかけてもなんとも返事がなかつたんです。でも、だんだん笑顔が出てきたりして、コミュニケーションがとれてきていることが分かりました。とてもうれしかったです。

屋宜 そうですね、私の患者さんも最初は反応がなかつたんですが、実習が終わる頃には、私が手を振ると患者さんが振り返してくれるようになったんです。

平安名 私の患者さんは割と自立度の高い方だったので、私が手助けをすることは少なかつたです。だから、患者さんのお話をできるだけ聞こうと思って接しました。患者さんは方言で話される方で、たぶん、ほとんどの看護師さんたちは患者さんの話す内容を理解できていなかつたと思います。でも、私は方言を聞き取ることができるので、患者さんの話す内容を理解できました。方言を聞くことができて、本当によかったです。

宮城 そうですね。高齢者と話すときは方言で大事だなと思いました。

沖看(沖縄県立看護大学)出身の男性の先輩の、とても楽しそうに働いている姿はとても励みになった

宮城 実習病棟に沖看出身の男性の先輩が勤めていて、その先輩にとても助けてもらいました。その先輩は笑顔で、いつも楽しそうに働いていて、仕事がきついなんて全く感じられませんでした。特に僕は男だから、そういう姿の男性の先輩をみると、とても励みになりました。

この実習で学んだことを次の実習にいかす

宮城 今、講義で学んでいる疾患は、僕が実習で受け持っていた患者さんの疾患なんです。だから、その疾患をもつ患者さんのイメージがつくり、実習で学んだことと講義で学んだことをつなげることができます。これからの実習も、講義で学んだことと実習で学んだことをつなげて考えていくようにしたいと思っています。あと、最初に受け持った患者さんは、これからもずっと忘れないと思うので、この体験をずっと大切にしていきたいと思います。

平敷 私はこれまで実際に患者さんにケアをしたことではなく、学校で練習していただけでした。でも、実習をしてみて、患者さんにケアをすることの実感がわきました。また、病院では決まった看護師が決まった患者さんを受け持つのかと思っていたが、そうではなかったんです。看護師はグループで患者さんを見ており、それは私が予想していたこととは違っていたので、少しひっくりしたのですが、とにかく色々な体験ができるよかったです。

屋宜 患者さんにケアを行ったのはこの実習が初めてでしたので、全てのことが難しかったと思います。

平安名 実習をしてみて、授業で学んだことを病院でそのまま使うことはできないことが分かりました。理想と現実のギャップを感じ、衝撃を受けたことも事実です。でも、実習中は、こういうケアがしたいとか、こういうふうにしたらもっと良いケアができるのではないかと考え、この5グループのメンバーで何度も練習し、お互いに意見を出し合しながらケアの工夫をしました。また、授業で学んだやり方ではなく、実習施設のやり方で足浴などの方法を一通り練習し、不快なく素早く実施する方法を考えてから患者さんに実施したことはとてもよかったです。でも、患者さんに実施したときには練習通りにはいかず、それが心残りですが、とにかく、練習の大切さを学びました。

宮城 そう、それに実習グループのメンバーがとても良いメンバーでした。

平敷 そうだね、皆がケアの練習に付き合ってくれました。皆がいたから頑張れたと思います。

屋宜 実習グループメンバーの大切さも、この実習で学ぶことができましたね。



新型インフルエンザが流行したこともあり、マスクを着用しての実習でした。



カンファレンスで、患者さんのケアについてディスカッションしているメンバーたち。



(インタビュー:名渡山)

地域貢献 公開講座

「臨床実習指導」セミナー

教授 嘉手苅 英子

10月～11月にかけて、臨床実習指導の担当者またはその予定者で、看護教員養成講習会や臨床実習指導者講習会を受講していない人を対象に、4回連続で「臨床実習指導」セミナー～臨床実習指導についての基本的な知識・方法・考え方を学ぶを開催した。PR不足や県主催の講習会と日程的に近かったこともあり、参加者は7～12名と少なかったが、参加者の熱意が伝わってくるセミナーであった。講師には本

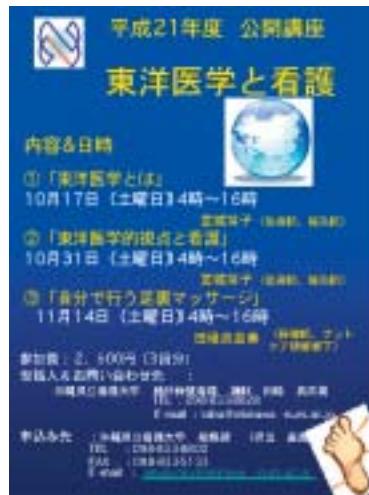
学教員の他、名桜大学人間健康学部看護学科の加藤久美子教授にも加わっていただき、臨床実習指導者の育成という共通の課題に、県内看護系大学の教員が協力して取り組むことができた。



東洋医学と看護

講師 田場 真由美

平成21年10月～11月の土曜日、本大学非常勤教員の宮城常子（助産師、鍼灸師）と共に【東洋医学と看護】をメインテーマに、「東洋医学とは」、「東洋医学的視点と看護」、「自分で行う足裏マッサージ」の内容で3回開催しました。参加者の多くは保健看護職で、延べ人数33名でした。参加者は若干少なかったのですが、毎回設けたハーブティタイムで、東洋医学的視点から自らのセルフケアや看護を考え、具体的な方法が話題に上がりました。足裏へのマッサージでは、若石フットケアの専業認定師の張氏の指導をも頂いた事で、さらに、専門技術の修得を目指して専門研修への参加を決める方も出来ました。開催者として大変ありがとうございました。



国家試験合格状況の推移

【看護学部】1期生～8期生

実施年度	期	看護師				保健師				助産師			
		受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(本学)%	合格率(全国)%	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(本学)%	合格率(全国)%	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(本学)%	合格率(全国)%
平成14年度	1期生	71	70	98.6	92.6	71	66	93.0	91.5	9	9	100.0	89.2
平成15年度	2期生	80	75	93.8	91.2	80	69	86.3	92.8	4	4	100.0	92.6
平成16年度	3期生	79	77	97.5	91.4	79	71	89.9	81.5	7	7	100.0	99.7
平成17年度	4期生	78	76	97.4	88.3	79	65	82.3	78.7	5	5	100.0	98.1
平成18年度	5期生	79	77	97.5	90.6	78	78	100.0	99.0	10	10	100.0	94.3
平成19年度	6期生	81	79	97.5	90.3	81	76	93.8	91.1	10	9	90.0	98.1
平成20年度	7期生	74	68	91.9	89.9	74	72	97.3	97.7	7	7	100.0	99.9
平成21年度	8期生	74	72	97.3	89.5	74	60	81.1	86.6	5	5	100.0	83.1

【別科助産専攻】1期生～2期生

実施年度	期	助産師			
		受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(本学)%	合格率(全国)%
平成20年度	1期生	19	19	100.0	99.9
平成21年度	2期生	20	15	75.0	83.1

渡嘉敷島研修

渡嘉敷島研修は学生会主催の行事で、毎年9月頃に行われます。看護職者としての協調性を身につけることを目的とし、学生や教職員との親睦を深めることができる行事です。

Coming Soon!

オープンキャンパス
8月7日(土)開催予定!

“目で見て、触って、やってみて、話してみて！”体と心で感じる沖縄県立看護大学オープンキャンパスって楽しいね！そんな声がまた今年も聞こえてきそ～。キラキラ輝くあなたの瞳に会えるのを楽しみにしています！

～平成21年度 卒業式・修了式～ 102人が有終の美

2010(平成22)年3月15日、看護学部第8回、別科助産専攻第2回、大学院第5回卒業・修了式が行われ、学部生74名、別科生20名、大学院生8名、合計102名の卒業・修了を祝いました。

野口学長から102名の卒業・修了生に告辞のことばが述べされました。

これに応えて、学部卒業生を代表して看護学部看護学科の内田冴子さん、別科を代表して別科助産専攻の具志堅理沙さん、大学院生を代表して保健看護学研究科の相原優子さんが、それぞれが答辞を述べました。

また、当日は県の主管部長の奥村啓子福祉保健部長が知事あいさつを代読し、卒業・修了生の門出を祝いました。



在学生の声

～これまでの大学生活を振りかえる～



2年次
早田 知世

私は熊本県出身です。入学して間もないころは、新しい環境に不安もありましたが、たくさんの良い友達にも恵まれ、充実した1年だったと思います。自ら選択することも増え、自由な面が増える一方で、行動に責任と自覚をもつことの大切さに気づき、自ら学ぶ姿勢が看護には必要不可欠なんだと思った。そして、家族や友達、たくさんの人に支えられていると実感した1年だったので、感謝の気持ちを忘れず、これからも目標に向かって努力していきたいと思います。



3年次
玉城 由紀乃

2年次の実習では、初めて受け持ち患者を持ち改めて自分自身の知識・技術の未熟さを痛感し、もっと学ばなければという気持ちになりました。実習中つらくなったりときは実習メンバーに助けられ、支え合うことができたと思います。こんな素晴らしい仲間に出会えたのもこの大学に入学できたからであり、財産であると思います。



4年次
嘉陽 晴奈

看護大学に入学して、早くも3年が過ぎました。これまで、1年からの基礎科目をはじめ、専門科目の講義や実習を乗り越えてきました。今振り返っても、初めて実習をした日の緊張感は忘れられません。しかし、講義や実習で得た知識や経験は自信に繋がりました。まだまだ学ぶことは多くあります。最後の1年間、気合いを入れて乗り越えていきたいと思います。

サークル活動紹介

アジア保健医療研究会

学生 伊禮 江里那

アジア保健医療研究会(通称アジ保)は、他大学との交流を深めながら、アジアの国々の現状(感染症、貧困など)について調べ、実際に現地に赴き、現地の人々の生活や社会・経済的状況などについて直接学んだりしています。普段の活動はズバリ！自由！！アジアの国々に思いを馳せながら各国の料理をつくったり、英語を学んだり、タイマッサージをしたりして楽しみつつ、他の国の言語や異文化に触れる体験をしています。



お世話になっている ご近所の声

本学の裏門向かいにある上江洲商店さんにお話しを伺いました。

「学生さんが来てくれるから、助かっています。学生さんの相手をしていると、自分の歳(80歳)を忘れて、気持ちが若返ります。学生さんも正直で、私が釣銭を間違えて、多めに学生さんに渡したら、「おばあちゃん、多いですよ」と返してくれたのよね。」とニコニコお話し下さいました。日頃、学生との対応を楽しみにしている様子がうかがえました。(取材:赤嶺・名渡山)



教職員の動き〈平成22年4月1日〉(就任・転入)



事務局長 大嶺 良則

大学での業務は戸惑うことばかりですが、図書館、綺麗な庭園と恵まれた教育環境や勉学に励む学生、賑やかな歓声、毎日が楽しい体験です。何か懐かしいものを感じながら、学生達から強いパワーをもらえそうな気がします。看大の理念実現に向け、頑張ります。



特別専任教授 植田 悠紀子

伊豆の八丈島で保健師のスタートを切り、厚労省の機関で保健師の研修に長く関わりましたので、島で働く看護職を対象とする大学院GPがとても魅力的で、4月に長崎からきました。沖縄の島々で人と野鳥を「観る」のが楽しみです。よろしくお付き合いください！



副参事 安次富 均

福祉保健部医務課から看護大学に席を移し、この度、事務員として一緒に頂くことになりました。異動して日が浅いながらもきめ細かい配慮が求められる大学運営事務の難しさと学生とともに過ごす楽しさを実感しています。どうぞ、よろしくお願ひします。



講師 上原 和代

小児保健看護の講師に着任致しました。臨床経験は東京都港区にある総合母子保健センター愛育病院で4年間。近所のおばーから「うちなー嫁ねえ」と呼ばれ早2年。日々の日焼け対策を怠らず、教育・研究活動に努めて参ります。



総務課長 玉城 昌常

平成22年度の人事異動で看護大学に発令されて2週間なろうとしています。先生方や職員の顔が一致し始め、学部長や役職の先生方、職員には以前から面識があったのではと思う程、暖かく接して頂けるのは本当にありがたいことです。看護大学の学生、先生方そして大学全体のためどうすれば、与儀の閑寂の住宅街のこの緑の空間のようになれるかと考えています。よろしくお願ひします。



講師 嵩元 リカ

2010年4月1日付けで、別科助産専攻の講師に着任いたしました。今までの10余年は臨床で数多くの方たちと関わり、この仕事の重要性をひしひしと感じてきました。これから育成する立場として日々研鑽していくことを思っています。不慣れな部分もあると思いますが、どうぞよろしくお願ひします。



主査 玉那覇 悅子

こんにちは。4月から総務課で勤務することになりました玉那覇です。看護大学は多くの緑に囲まれ、学生さんもフレッシュで活気に満ちあふれているように感じます。そのような環境でお仕事をさせてもらうことに、本学とは違った雰囲気でモチベーションも上がっています。これから私なりに一生懸命がんばりますので御指導、御鞭撻よろしくお願ひします。



講師 仲里 なつみ

はじめまして。4月から山城綾子先生の育休補充として英語を担当しております。非常勤をしていた先学期に比べ、学生の皆さんとゆっくりお話しする機会が増え嬉しいです。英語学習を通じ視野を広げるお手伝いができます。どうぞ宜しくお願ひ致します。



主任 重久 舞子

農林水産部農林水産企画課より異動となりました。大学院事務を担当していますが、今までとは全く異なる業務内容に驚きの連続です。いろいろ質問等をさせていただくことが多いと思いますが、どうぞよろしくご指導願います。



助教 高橋 幸子

4月から基礎看護の助教に着任しました。沖縄での生活は初めてで、着任してからのこの数日間、目にするものひとつひとつが珍しく感じられ、新鮮な日々を送っています。沖縄独特の伝統文化にたくさん触れながら、教育・研究に励んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。



主任 知名 賢

本年4月から、総務課で勤務しています知名 賢と申します。今までの職場とは全く異なる業務内容で、教職員の皆さんにフォローして頂きながら業務をこなす日々ですが、これまでの職場で経験し学んできたことを活かしながら、少しでも早く学生の皆さんや教職員の皆さんとの緑の下の力持ちになれるよう頑張っていきたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。



助手 山本 弥生

4月より、成人保健看護領域の助手として勤務しております、山本弥生です。長崎出身で、沖縄県立看護大学の卒業生です。大学卒業後は、主に内科、精神科を経験してまいりました。現場で学んだことを少しでも学生の皆さんに伝えていけたらと思っています。今後ともどうぞよろしくお願ひします。



主任 玉城 辰也

初めまして。4月から学務課で勤務しております玉城です。県議会事務局から異動して参りました。慣れない業務に戸惑い、大変さを実感しています。学生の皆さんも円滑に大学生活を送れるよう、サポートしていきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。



主事 知花 優樹

4月1日付で、事務局総務課へ配属になりました知花優樹と申します。以前の職場では、県管轄道路の維持管理に関する苦情対応等の業務を行いました。窓口、現場、電話等で頑張ってきました。今年度の業務としましては、主に給与関係を担当します。総務に関する業務は初めての経験の為、日々勉強しながら頑張っていきたいと思いますので、どうか皆様、お手柔らかによろしくお願ひ致します。

〈退職・転出〉

定年退職(H22.3.31) 事務局長 有銘 政勇

定年退職(H22.3.31) 総務課長 山城 正和

退職(H21.9.30) 講師 山城 五月

退職(H22.3.31) 助教 新垣 康子

退職(H22.3.31) 助教 吳地 祥友里

退職(H22.3.31) 助手 清水 かおり

定期人事異動(転出) 副参事 新里 榮

定期人事異動(転出) 主査 徳嶺 かおり

定期人事異動(転出) 主査 石川 洋幸

定期人事異動(転出) 副主査 中田 とも子

定期人事異動(転出) 主任 安里 健

〈平成22年度 主な大学行事〉

入学式 4月2日(金)
前期授業開始 4月5日(月)
開学記念日 5月15日(土)

第12回看大祭 6月5日(土)~6日(日)

オープンキャンパス 8月7日(土)

ハワイ研修 8月22日(日)~9月10日(金)

大学院入試 9月11日(土)

後期授業開始 10月1日(金)

特別選抜入試(看護学科) 11月20日(土)

推薦選抜・社会人特別選抜入試(別科助産専攻) 11月20日(土)

卒業論文発表会 12月14日(火)

大学入試センター試験 1月15日(土)・16日(日)

一般選抜入試(別科助産専攻) 2月8日(火)

一般選抜入試(前期・看護学科) 2月25日(金)

一般選抜入試(後期・看護学科) 3月12日(土)

卒業式 3月15日(火)

かせかけとは

琉球古典舞踊女七踊りの一つです。絆とは幼いだ糸を巻く道具で、絆掛けとは布を織る糸をこしらえている様子を指しています。この踊りのように丹念に糸を紡ぎ布を織って着物に仕立てていく、その一途の心と「技術」・「感性」は、「知識」の繼承・創出とともに、本学の看護職者を生み育む教育・研究の原点に相通ずるものであろうと、広報誌の名称にしました。

琉球古典舞踊
かせかけ

沖縄県立看護大学

〒902-0076 沖縄県那覇市与儀1丁目24番1号
TEL (098) 833-8800(代表) FAX (098) 833-5133
<http://www.okinawa-nurs.ac.jp>

■編集 沖縄県立看護大学／広報・情報専門部会

■発行 2010(平成22)年5月30日